

陶芸コース

2016年度 試験科目

公募制推薦入試

一般入試A日程

一般入試B日程

- 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部 共通鉛筆デッサン (P.045~)
- 立体表現
- 面接・作品審査 (P.084)

前年度からの変更点

- 公募制推薦入試、一般入試A日程の「芸術学部共通鉛筆デッサン」を「芸術学部・デザイン学部・マンガ学部共通鉛筆デッサン」として実施します。

● 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部 共通鉛筆デッサン

P.045

● 立体表現

出題意図： 土を素材に、その人が持っている発想力、想像力、造形力に期待しています。テーマに対していかにその人なりの視点を見いだしているかに注目します。また、用意したものを制作するのではなく素直にテーマに取り組み、3時間の試験を楽しめれば自分の表現を広げることができるでしょう。

2015年度 公募制推薦入試 試験問題

時間： 3時間

問題： 与えられたモチーフと粘土を自由な発想で組み合わせ、立体作品を作りなさい。
また、制作意図を原稿用紙に200字以内の文章で説明しなさい。(時間内に書くこと)

モチーフ：



- バンド(約15m) 1本

制作条件：

- モチーフのバンドは切ってはいけない。
- 粘土は使い切らなくても良い。

支給素材：	
● 粘土	10kg
● 彫刻用木ベラ	3本
● 制作板(45×45cm)	1枚
● アイデアスケッチ用紙(B4)	1枚
● 原稿用紙	1枚
● 座席番号記入用紙	1枚
● 画鋏	1個



与えられたベルトを見ると、長い、うすい、
 軽いなど粘土とは対照的な点がいくつか見え
 ました。ベルトは、何度も重ねることにより
 ボリュームが出ますが、粘土ほどの密度はあ
 りません。私はその対比をいかした構成を考
 えました。さらにベルトでボリュームを出し
 、作品全体の動きをより大きくするための、
 粘土の着地を作りました。

立体表現 作品評価

粘土の造形にはリズムのある動きがあり、観る者を後部へと誘い込む、
 理性的な造形となっています。また、動きのある粘土のボリュームと、バ
 ンドの軽やかなトンネルによる大きな空間が、作品の動きをさらに大きく
 しています。異素材を加えることで新たな発見を見いだすことに成功した
 良い作品です。

立体表現 作品評価

ソリッド感のある端正な形からは、素材に向き
 合う真摯な姿勢が感じられます。大きな動きは
 ありませんが、ボリュームがありゆったりとした
 魅力があります。粘土で作った大きな空間に、
 長いバンドを凝縮させるという大胆なアレンジ
 から、作ることに對する挑戦的な姿勢が伺え
 る魅力的な作品です。



モチーフのバンドの曲線を活かしたいと思い、バンドに目がいく様に構成し
 た。バンドの塊を希望や期待、粘土の部分に人に見立てて、内側から希望を
 溢れさせながらゆっくりと進んで行く様子を表現した。バンドと対比するた
 めに、粘土は平面と曲面で無機的な表現にした。